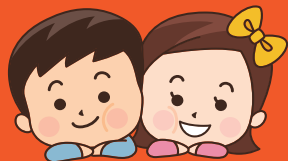




食を必要とする “1人”のために



特定非営利活動法人フードバンクTAMA

〒191-0062 日野市多摩平 2-12-4

TEL:080-6814-3657

Email: foodbank.tama@gmail.com

URL: <http://www.foodbank-tama.com>

コロナに明け暮れたこの一年

新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ続けたこの1年、不安な日々を過ごしてこられたご家庭が大半ではないでしょうか。当フードバンクもコロナにより活動が大きく変化した1年でありました。

4月以降、ステイホームの影響で食品が売れなくなり、行き場を失った食品を食品会社から大量に提供いただいた。ただし、5月以降はその反動として減産傾向となり、当フードバンクは新たな食品企業への寄贈依頼を行うことで不足気味だった食材を確保しました。また、従来は様々な団体によるフードドライブの実施でバラエティあふれる食品を寄贈していただいていたが、今年はフードドライブの実施がコロナ禍で激減したため、そのチャンネルが閉ざされてしまいました。しかし、反対に個人からの食品寄付が増加し、毎日のように豊田倉庫に届くようになりました。

5月以降、活動休止をする子ども食堂が増えていきましたが、ひとり親家庭へ出向き、食品提供する活動に切り替える食堂が増えて行ったように思います。何とかしたいという熱意を感じ、当フードバンクもそうした子ども食堂へバックアップをするようになりました。一方、昨年11月から開始した日野市フードパントリー事業は、4月以降急激に増加し、来年3月末には1,000件に達する見込みです。

八王子市においても、福祉担当窓口や子ども家庭支援センターと連携し、ひとり親家庭や生活困窮世帯へのフードパントリー事業を本年10月より展開しており、これも大好評です。

資金面では、新型コロナ対策として東京都や諸団体による助成金制度が設けられたことで、赤い羽根募金、カリタスジャパン、また、Jcoinなど、これまでにない補助金を受けることができたました。深く感謝いたします。

こうした中、当フードバンクの活動も大きく変化。入荷・配布する食品量が従来は月3トン程度であったものが倍以上になりました。取り扱う量が増えたため、活動日もほぼ毎日になってしまいました。

また、9月には、従来の大坂上倉庫ではこのコロナ禍で入出荷量が対応しきれなくなったこともあり、より広くアクセスも良い豊田駅近くの倉庫に移転しました。

その他、2020年に変化したことを以下列記したいと思います。

- ① 毎月の理事会のオンライン開催
- ② 毎年開催していたシンポジウム開催の見送り
- ③ Webサイトのリニューアル
- ④ 児童福祉施設・子ども食堂へのアンケート実施
- ⑤ フードパントリー個別受給者へのアンケート実施

これからも元気いっぱい続けます！

今の日本の子供の貧困という問題、しかも相対的貧困率16.1%（6人に1人が貧困）という実態を知ったのは、今から3年前の日野市開催のシンポジウムとフードバンクTAMAの第2回シンポジウムでの参加でした。これが現実か、と衝撃を受け、「うそでしょ」と言葉が出たことを思い出します。そこでフードバンクの活動（まだ食べられるのに様々な理由で処分されてしまう食品を、食べ物に困っている施設や個人に届ける活動）を知り、今、私にできる事として微力ではありますが、フードバンクTAMAのお手伝いをすることにいたしました。

巷にはたくさんの美味しい食品があり、豊かな食を楽しむ幸せがある一方で、十分な食事が取れない子供やその保護者の境遇を知り、とても心が痛み、何とかならないものかと思い、また、食料支援を待っている子供たちを想い、今まで以上にアンテナを張り、3年間お手伝いを続けています。お手伝いの内容とはというと、食料の集荷や配達（供給）などの現場作業だけの「小さな貢献」です。いつやるの？今でしょ！（即実行）を合言葉に、

ボランティア登録をしていた複数のメンバー（チームS）で集荷・配達を行っています。

食料配達は、マイカーでの配達につきものの駐車の問題、配達先探しのナビゲートなどの心配もなく、効率よく出来、事務局からの電話一本の依頼で即対応するようにしています。

複数のメンバーでやることで、メンバー間の思いや気付きをぶつけながら、時空間を共有しながら、モチベーションを保ちながら気持ちよく活動をしています。

今年は新型コロナウイルス感染症の問題もあり、フードパントリーや大学生への食料支援を含め、生活困窮者への支援が広がり、取扱い食料増加に伴うコア業務の増加も続いています。現状の運営を継続するにはマンパワーが心配であり、チームSの「小さな貢献」を止めるわけにはいきません。フードバンクTAMAのモットー「食を必要とする一人のために」をこの先まだまだ続けていきます。

先崎 益朗（ボランティア：日野市在住）

食品企業様や個人の方から多くの食品が届けられました。ありがとうございました。

受贈	主食 : 15958 キロ	飲料 : 899 キロ	缶詰 : 2599 キロ	野菜 : 12988 キロ	菓子等 : 1026 キロ	調味料 : 4556 キロ
----	---------------	-------------	--------------	---------------	---------------	---------------

2020.4 ~ 2020.9 の間、児童福祉施設・子ども食堂等へ寄付した食品の種類

提供	主食 : 16223 キロ	飲料 : 990 キロ	缶詰 : 3378 キロ	野菜 : 12722 キロ	菓子等 : 1055 キロ	調味料 : 4422 キロ
----	---------------	-------------	--------------	---------------	---------------	---------------

フードバンク TAMA さんには感謝、感謝、感謝です

日頃より、八王子市子ども家庭支援センター事業にご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。

平成 16 年の児童福祉法改正により平成 17 年 4 月から子ども家庭相談に応じることが市町村の業務として明確に規定され、八王子市子ども家庭支援センターも八王子市子ども家庭支援センター条例に基づき、0 歳から 18 歳未満の子どもと家庭の総合相談として組織しています。

昨今の子どもを取り巻く環境が問題視されており、虐待に発展するご家庭や、養育困難家庭、貧困家庭、一人親家庭など相談内容が複合的になっています。このような背景があることから、対応が深刻化、多様化、長期化することがあり、私たち行政だけではとても難しく地域の資源を活用しながらご家庭に介入しているのが実情であります。

こうした状況を踏まえて令和 2 年度（2020 年）より、フードバンク TAMA さんから食料提供のご支援いただくことにより、一部のご家庭に配給させて頂いています。

保護者やお子さんからは、暖かい言葉を頂いておりまして、「助かります、ありがとうございます」「またきて、またちょうだいね」と、とても表情豊かに元気な声で応対してくれています。

これもひとえに、フードバンク TAMA さんからの食料提供のご支援とお力添えの賜物です。この場を借りて深く感謝申し上げます。

引き続き、八王子市のお子さんや保護者に笑顔の絶えない家庭が築けるように、八王子市子ども家庭支援センターとしても寄り添いながらサポートを続け、子育て・子育てに不安や負担を感じることをない子育てしやすいまちづくりを地域の皆様と一緒に考えながら取り組んでいきたいと思ひます。

最後になりますが、子どもと家庭に係ることば悩んでいる方、相談したい方は、八王子市子ども家庭支援センターに気軽に相談して下さい。いつでもお待ちしております。

太田 敏弘（八王子市子ども家庭支援センター館主査）

フードバンク TAMA の皆さまへ

NPO 法人ゆめのめが運営するデイケアルームフローラは、0～18 歳までの重症心身障害児対象の障害児通所支援事業所です。医療の進歩とともに助かる命が増え、経管栄養や酸素吸入など医療的ケアと共に生きる児は 10 年で 2 倍、人工呼吸器をつけた児は 10 倍にも増え、病院を退院したお子さんたちの発達支援や地域社会への参画を担う居場所として運営し、看護師常駐の施設が全国的にも少ないことから、現在 40 名以上の児童が 1 日 5 名定員の枠内でご利用いただいています。

通常のかたちのあるお食事を食べることが難しくなめらかにしたり、つぶして食べやすくする配慮が必要ですが全国でも給食を提供する施設は少なく家族が形態調整した食事の弁当を持たせていることから、家族の介護負担と重症児の栄養に配慮した食事を提供するため、全国でもめずらしい取り組みとして形態調整した給食・おや

つを毎日提供し、食べる楽しみや栄養に配慮した食支援を行っています。

フードバンク TAMA さんには障がいのあるお子さんたちの食生活を豊かにする当事業所の食育の取り組みや、そうしたご家庭の状況に配慮をいただき、野菜やお菓子などを提供いただいています。事業所の人員配置等でギリギリの経営状況で本来は給食を提供できる余力はありませんが、様々な食材をいただけていつもの給食やおやつをバラエティ豊かに提供することができとても有難く感謝しております。

また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で外出に命の危険が伴う重症児にとって、感染を恐れ買い物に出かけられない家庭に対し食材をお届けすることができ、「きょうだいもお菓子や食べ物を喜んでよかった」「障がいのある子を連れて買い物に行けなくて困っていたので助かった」などお声をいただいています。

食材をいただいた方々とのご縁を大切に、いただいた食材を余すことなく大切に調理させていただき、障がいのあるお子さんと家族の暮らしが豊かになるようこれからも活動を継続していきな思ひています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

大高美和（NPO 法人ゆめのめ）＜日野市＞

